学習のポイントの解答例

1　**「唄」（一四四・下7～一四五・上4）について、(1)「同じこと」（一四四・下15）とは、具体的にどのようなことをいうか、説明してみよう。(2)（　）内の書き下し文を現代語訳し、発表してみよう。**

【答】

(1)　楚に親族を殺され、国を追われ呉に亡命した客臣で、楚に復讐したいと思っていること。

(2)　同じ病のものはお互い憐れみ、同じ憂いを持ったものはお互い助け合う。驚いて飛び立った鳥は互いにしたがい集まり、瀬の水は勢いを盛り返してともに流れる。胡地の馬は（故郷の）北風を望んで立ち、越地の燕はいつも（南の）太陽に向かって嬉々としている。誰でもその近い関係の人を愛さないものはいないし、その思う人を哀れまないものはいないのではないか。

▼ポイント▲

(1)「発問例」**問**「子胥は伯嚭が自分と境遇を同じくし」とあるが、どのような境遇かに詳述。「ここは、『私（伍子胥）と同じことを思う』という意味。」という助言を与える。

(2)は、書き下し文の現代語訳。「わかりやすい漢詩の現代語訳を作ってください。発表してもらいます。」と告知するとよい。単なる現代語訳ではなく、わかりやすい現代語訳という指示によって言語活動のポイントが示されよう。また、「学習のポイント」として提示してないが、生徒に自身が作った現代語訳と海音寺のものと比較させ、言葉の違いを分析させるのも興味深い言語活動となろう。

2　**伍子胥は伯嚭に対して、どのような思いを持っていたか、本文に即してまとめてみよう。**

【答】伍子胥は伯嚭の楚を恨み復讐したいという気持ちに共感していた。（伍子胥は伯嚭の志に共感した。）共感できたのは、伍子胥と伯嚭が、楚に親族を殺され、亡命したという同じ立場・境遇にあったからだと考えられる。つまり、「同病」「同憂」の関係であったから共感できたということになろう。

▼ポイント▲　伍子胥と伯嚭が、同じ境遇の関係であるため、伍子胥は伯嚭の気持ちが理解できた。そこで、伍子胥は伯嚭を太夫に推薦するくらいなので「理解」よりももっと強い気持ち、「共感」が、ここでは適切だと考え、そのようにした。また、「子胥は承服せず、益々親しみ」（P一四五・上14）とあるように、伍子胥は伯嚭に対して、「完全なる信頼心」を持っていたとも考えられる。ちなみに、生徒から「伍子胥が伯嚭を『重く用いさせた』（P一四五・上14～15）とあるから、『共感』だけではなく、やはり、伯嚭に政治的な手腕を感じていたからだと思う。なので、政治的に有能な人物とも思っていたということも考えられないか。」という意見が出てくる可能性はある。この本文にその意見についての根拠はないが、類推できる範囲であろう。もしこのよ

うな意見が出てきたら、取り上げ、これに対する意見を他の生徒に聞いてみたい。

（前田　康晴）